

木馬会会報(第4号)

オークス特集

先週の結果

な、なんと予走者B、安田記念は荒れるという見解どおり、ノースフライトを軸にしての4点買いで見事万馬券を的中致しました。3万ぐらいつくかとも思いましたが、とにかくお見事というしかありません。今週オークスの予走も期待しましょう。覆面レスラーもノースフライトの単勝を予走しておりました。木馬会の予走者には兵が多いようです。

～木馬たちの予走（オークス編）～

予走者 覆面デスラー

オークス

…予走者の屁理屈…

トーフダーリンが来てしまうGIでは、GIは信用しないほうが良い。宝くじでも買うつもりで気軽に買うのが一番。というわけで、オークスは気軽に忘れられたような馬を買う。

ポイント；①芦毛伝説を信用して パルセイト

②桜花賞の実績人気から アグネスパレード

③抽選となる 800万クラスから サンバデオル

(4/5の確率)

ジンシリウス

トウカイビスタ

ハシノホホエミ

オークスに自信がないから、けやきSでおおもうけする

◎…トランブルー ○…ヒシアリダー ▲…メイショウセントロ

×…ヤエノジョオー

府中S ハンデ戦のためなんともいえないが以下3頭のBOXにする。

◎…ダンノーブル ○…アサヒジュピター ▲…センショウダッシュ

特にハンデ、天気次第で▲は単を狙う。

ダービー1週前予走

ナリタブライ안의◎は堅い。ナムラコクオーは距離不安で3着止まりか。◎の連対候補には、アイネスサウザー、イイデライナー、オフサイドトラップ。2着は先行馬がにぎあうなか、中団でじっくり脚を溜められる馬、距離伸びて大化けする馬を指名する。

予想者 TP

オークス

◎…オグリローマン ○…チョウカイキャロル ▲…グッドラックスター

△…ツルマルガール、ハシノホホエミ、パルセイト、メモリージャスパー

…予走者の屁理屈…

今回のオークスはオグリローマンの取捨が問題となる。しかし冷静に考えてみよう。もし

この馬がホワイトローマンという名前で、オグリキャップとなんの関係もないただのマル地馬だとしたら、もっと中心視されているはずだ。競馬を知った人は、“オグリ”の妹だからミ－ハーな奴等が応援してんだよ”的な観点から穴馬を見つけようとするだろう。しかしその考えの中、本当の馬の姿を忘れてる。この馬の成績を見ると、休み明け、初芝のエルフィンS以外は確実に脚を伸ばしている。その息の長い末脚は東京コースですらに生きるはずだし、馬群に怯まない根性も良い。馬体も一戦ごとに増えて、ふっくら見せている。確かに桜花賞は武の好騎乗もあったが、一番オークスに近い位置にいるのは間違いない。戦国オークスで絶対と言えないのはもちろんだが、1倍台の断然人気にはならないだろうし、連軸としての人気もさほど無いだろう。かえってそこが狙い目。

さて、相手は絞らないとたくさん残ってしまう。バンバンいきましょう。アグネスパレードは体重が減り続けていて、この中間も馬体回復に重点を置いた調教。これでは例え馬体が増えても2400mはもたない（例；ニシノフラワー）。オンワードノーブルは2か月ぶりの実戦を覆すほどの実力はないと思うし、牝馬の重賞勝ちを出していなかったアンバーシャダイ産駒というのも減点。ゴールドンジャックはトライアルがピーク。上がり目はない。メローフルーツはスピードが勝ちすぎている。マイネマジックはローテーションがきつすぎる。

相手筆頭はTキャロル。前走の勝ちっぷりが圧巻。確実に脚を伸ばすし、早めに先頭に立つようなことさえなければ勝ち目も。▲Gスターは前走前をカットされなければもっと上位にこれた。怖がりな面があり、広い東京コースに変わるのには好材料。ただラグビーボール産駒というのが疑問ではある。△筆頭はTガール。藤田伸二が“バネの上に乗っているような感じ”と絶賛（Number 340号参照）しており、ローテーションも無理ない。Hホホエミは抽選待ちだが、出てくればその強運と能力に賭けてみたい。パルセイトも最近急激に力をつけている。Mジャスパーはローテーションがきついが、中間もいい時計で追っており、6キロ以上の体重減がなければ。

予想者 ラッキー桑島

オークス

ラッキー桑島の自信なし！

ヒシアマゾン、ロープモンタントのいない戦国極だが、ずばり中心はオンワードノーブルで堅い。府中でAサウザー、Tカンカン、Dゼアーらの強豪牡馬相手に戦ってきた経験とアンバーシャダイ×ハードツーツービートというまさに1.5マイル血統の魅力に期待したい。また桜花賞とは一変してスローペースになる極で先行差し脚質も有利である。ヤネに一抹の不安はあるが200勝達成をバネにのびのび乗ってもらいたい。（ガレオンの二の舞はやめて）相手本線はこれまたヤネが不安だがチョウカイキャロルをあげたい。プライアンズタイム×Mプロスペクターのそそる血筋が本格化のきざしにある。二週続けてのBタイムも悪くない。単穴にはアグネスパレードを狙い撃ち。上記2頭に騎乗ミスがあれば間違いなくこの馬。父はダービー馬、祖母はオークス馬、母の父は天皇賞馬Rターキンの父、さらにRワールドの血にも近い。自身チューリップ賞ではぶっこ抜きのまさにアグネスだけに私の彼は左ききであり？、単勝勝負ならこの馬。その他では2週続けてこけた武のOローマンが不気味であり、ヤネ強化のパルセイト、牝馬のツツン角田のMジャスパーが押さえ。

今週の公式

- ・二本柳×杉浦×900万条件＝軸はかたい
- ・河内×牝馬×アグネス一族or華麗なる一族＝勝つ時は強い

オークスについて思ふこと

毎年この季節になると思うのは栄光の日本ダービーの華やかさとは裏腹にオークスにはどこか哀愁がただようような気がする。それは4才の夏を越す前のまだ完成途上のあどけなさが残る乙女達にとって、ごまかしのきかない府中の2400はかなり過酷である事とそれ以上にクラシックを目指すためにかなりの強行日程で出走させられる馬たちが多いことが原因なのかもしれない。

自分が初めてオークスを見たのは第51回アグネス一族VS華麗なる一族の対決の時であった。桜花賞馬のアグネスフローラとのちに名牝といわれるダイイチルビーである。しかしこの世紀のお嬢様対決の勝者はサンドピアリスを彷彿させる追い込みを決めた岸のエイシンサニーであった。

翌年は当時史上最強牝馬世代（翌年もそう言われた）の語り草3部作（桜花賞、オークス、エリザベス）の第2章、裸足のシンデレラ・イソノループルとシスタートウショウのハナ差の激闘であった。ここでは多くは記述しないが是非、なにかの機会に木馬会でこの3部作を語り合いたいものだ。

その後、ラジオ短波の名実況で有名な史上最強牝馬世代の激闘、（この時アナウンサーは最後の100Mでアドラブル、サンエイサンキュー、キョウワホウセキと3回連呼した）や1着から3着までが桜花賞の再現フィルムとなった昨年と歴史は刻まれてきた。

こうして見てくると共にクラシックの頂点を極めた馬同志でも歴代ダービー馬のその後の華やかな競争成績に比べて歴代のオークス馬はなぜか2度と輝くことのない道を歩んでいるように思える。なるほどその後、輝かしい競争生活を送れなくても、数年後に元気な子供を産んでくれればそれはそれでとても素晴らしいことであり真の意味でのサラブレッドの成功であるのかもしれない。

5月22日、また今年もオークスのゲートは開く。なにが勝っても数年後に興奮して話せるドラマを見せてもらいたい。

くわじま

さて、いよいよ来週はダービー。競馬のお祭りです。日曜日は朝からなんだかワクワクしますね。皆さんの大作を期待しております。